

資料配布の場所

1. 国土交通記者会
 2. 国土交通省建設専門紙記者会
 3. 国土交通省交通運輸記者会
 4. 筑波研究学園都市記者会
 5. 横須賀市政記者クラブ
- 令和5年11月15日同時配布



令和5年11月15日
国土技術政策総合研究所

令和5年度国総研講演会を開催します ー「地震災害への国総研のチャレンジ～関東大震災から100年～」ー

12月14日（木）に国総研講演会を開催します。「地震災害への国総研のチャレンジ～関東大震災から100年～」をメインテーマに、国立研究開発法人 海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門 部門長 堀宗朗氏による特別講演、国総研の研究者によるパネルディスカッションを実施します。

1. 日 時 : 令和5年12月14日（木）10:00～17:25（開場9:30）
2. 場 所 : 東京証券会館（東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8）
※当日はライブ配信も併せたハイブリッド開催を予定しております。
3. プログラム : 詳細は別添資料、「国総研」のホームページ参照
10:00 開会
10:25～11:45 パネルディスカッションⅠ
13:00～14:00 特別講演
14:15～15:35 パネルディスカッションⅡ
15:50～17:20 パネルディスカッションⅢ
17:25 閉会
4. 参加申込み : 定員1,300名（内会場300名、ライブ配信1,000名）
12月11日（月）までに、下記ホームページからお申込みください。
<http://www.nilim.go.jp/lab/bbg/koen2023.html>
なお、本講演は土木学会 CPD プログラムの単位認定を申請中です。

○報道機関の皆様へ

講演会当日に取材を希望される場合は、下記ホームページのお申込みフォームより、登録をお願いいたします。

<http://www.nilim.go.jp/lab/bbg/koen2023.html>

【問い合わせ先】

国土交通省 国土技術政策総合研究所

企画部 企画課 主任研究官 田中、企画係 須藤

TEL: 026-864-2674 E-Mail: nil-kouenkai@ki.mlit.go.jp

令和 5 年度 国総研講演会

地震災害への国総研のチャレンジ

～ 関東大震災から 100 年 ～

1923年に発生した関東大震災では、火災などにより死者10万人を超える大きな被害を受けました。

この100年間、耐震、防火技術が進展した一方で首都圏はますます過密化し、今後想定される首都圏直下地震の被害想定では、総額95兆円もの被害が想定されるのみならず、避難者は、最大で700万人を超える見込みとなっています。

本講演会では、関東大震災から100年が経ち、これまで社会資本の耐震性の研究が進められるとともに、近年、未来社会Society5.0が掲げられ、サイバー空間とフィジカル空間の融合への期待が高まっている今、我が国でどのような防災・減災対策が必要であるのかを議論します。

参加無料
事前申込制

日 時

令和5年12月14日(木)
10:00～17:25(開場 9:30)

会 場

東京証券会館
(東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8)

ライブ配信 あり

申 込

下記QRコードより、お申し込みください。

申込期限

令和5年12月11日(月)



※定員は、会場で300名、ライブ配信で1,000名を予定しております。

※定員に達し次第受付終了とさせていただきますので、予めご了承ください。

※本講演会では、土木学会CPDプログラムの単位認定を申請する予定です。

詳細は左記QRコードの国総研HPをご覧ください。

お問い合わせ

国土交通省
国土技術政策総合研究所

National Institute for Land and Infrastructure Management

企画部企画課

TEL : 029-864-2674

Email : nil-kouenkai@ki.mlit.go.jp

10:00~10:05 開会の挨拶 所長 佐々木 隆

10:05~10:20 事業概要 企画部長 宮武 晃司

10:25~11:45 パネルディスカッションⅠ (11:45~12:00 登壇者との交流タイム)

インフラの強靱化

インフラの耐災害性の高度化に加え、復旧のしやすさを考慮したインフラ整備・管理や災害覚知の機能向上など迅速な復旧の実現に向けたチャレンジについて議論します。

コーディネーター



研究総務官
水谷 雅裕

パネリスト



道路構造物研究部長
星隈 順一



港湾・沿岸海洋研究部長
酒井 浩二



空港研究部
空港施設研究室長
坪川 将丈

13:00~14:00 特別講演



地震の備えと対応のためのDXチャレンジ ～防災用都市のデジタルツインの構築と利用～

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門 部門長 堀 宗朗 氏

<プロフィール>

- ・1961年生まれ
- ・Ph.D. (Applied Mechanics)
- ・元東京大学地震研究所巨大地震津波災害予測研究センター長
- ・専門は応用力学、地震工学、計算工学
- ・主な研究テーマは、統合地震シミュレーションや地震応答解析用HPC-FEM、都市自動モデル構築など
- ・SC22 Gordon Bell Prizes Finalist (14, 15, 18, 22)、土木学会研究業績賞、防災功労者内閣総理大臣表彰などを受賞
- ・著書には、「東日本大震災の科学」(共著)、「Introduction to Computational Earthquake Engineering」等

14:15~15:35 パネルディスカッションⅡ (15:35~15:50 登壇者との交流タイム)

DXによる防災・減災の高度化

デジタルツインの活用などDXによる危機管理対応の高度化、被災情報・災害行動のデータ共有、自動・遠隔施工による安全かつ迅速な復旧に関する取り組みを紹介し、効果や課題について議論します。

コーディネーター



研究総務官
福田 敬大

パネリスト



河川研究部長
松本 洋忠



土砂災害研究部長
田村 毅



社会資本マネジメント
研究センター長
塩井 直彦



港湾情報化支援
センター長
小澤 敬二

15:50~17:20 パネルディスカッションⅢ (17:25~17:40 登壇者との交流タイム)

地域防災力の強化

関東大震災から100年、耐震・防火技術が進展し、都市構造・社会活動も当時とは全く違う首都圏を守っているという観点から、被災後の避難を可能な限り軽減するレジリエンスの強化について議論します。

コーディネーター



副所長
脇山 芳和

パネリスト



下水道研究部長
三宮 武



道路交通研究部長
吉田 秀範



建築研究部長
長谷川 洋



住宅研究部長
木内 望



都市研究部長
村上 晴信

17:20~17:25 閉会の挨拶 副所長 永井 一浩